

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2005-502344(P2005-502344A)

【公表日】平成17年1月27日(2005.1.27)

【年通号数】公開・登録公報2005-004

【出願番号】特願2003-523647(P2003-523647)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
C 0 7 K	14/705	(2006.01)
C 0 7 K	16/28	(2006.01)
C 0 7 K	19/00	(2006.01)
C 1 2 N	1/15	(2006.01)
C 1 2 N	1/19	(2006.01)
C 1 2 N	1/21	(2006.01)
C 1 2 P	21/02	(2006.01)
C 1 2 Q	1/02	(2006.01)
G 0 1 N	33/15	(2006.01)
G 0 1 N	33/50	(2006.01)
G 0 1 N	33/53	(2006.01)
G 0 1 N	33/566	(2006.01)
C 1 2 N	5/10	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
C 0 7 K	14/705	
C 0 7 K	16/28	
C 0 7 K	19/00	
C 1 2 N	1/15	
C 1 2 N	1/19	
C 1 2 N	1/21	
C 1 2 P	21/02	C
C 1 2 Q	1/02	
G 0 1 N	33/15	Z
G 0 1 N	33/50	Z
G 0 1 N	33/53	D
G 0 1 N	33/53	M
G 0 1 N	33/566	
C 1 2 N	5/00	A

【手続補正書】

【提出日】平成17年8月25日(2005.8.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a)配列番号3または配列番号5の配列を含むポリヌクレオチドによりコード化される单

離 m G R R ポリペプチド、

(b) 配列番号 4 または配列番号 6 のポリペプチド配列と少なくとも 96 % の同一性を有するポリペプチド配列を含み、リガンド結合検定法において m G R R の場合と類似した特性を示す单離 m G R R ポリペプチド、

(c) 配列番号 4 または配列番号 6 のポリペプチド配列を含む单離 m G R R 1 b または m G R R 2 ポリペプチド、

(d) 配列番号 4 または配列番号 6 のポリペプチド配列と少なくとも 96 % の同一性を有し、リガンド結合検定法において m G R R の場合と類似した特性を示す单離 m G R R ポリペプチド、

(e) 配列番号 4 または配列番号 6 のポリペプチド配列、

(f) 配列番号 4 または配列番号 6 のポリペプチド配列と比べて 0.96 の同一性指数を有するポリペプチド配列を有するかまたは含み、リガンド結合検定法において m G R R の場合と類似した特性を示す单離 m G R R ポリペプチド、

(g) (a) ~ (f) 記載の上記ポリペプチドのフラグメントまたは変異型から成る群の一つから選択される单離 m G R R ポリペプチド。

#### 【請求項 2】

配列番号 4 または配列番号 6 のポリペプチド配列である、請求項 1 記載の单離ポリペプチド。

#### 【請求項 3】

(a) 配列番号 3 または配列番号 5 のポリヌクレオチド配列と少なくとも 80 % の同一性を有するポリヌクレオチド配列を含み、リガンド結合検定法において m G R R と類似した特性を示すポリペプチドをコード化する单離 m G R R ポリヌクレオチド、

(b) 配列番号 3 または配列番号 5 のポリヌクレオチドを含む单離ポリヌクレオチド、

(c) 配列番号 3 または配列番号 5 のポリヌクレオチドと少なくとも 96 % の同一性を含み、リガンド結合検定法において m G R R と類似した特性を示すポリペプチドをコード化する单離ポリヌクレオチド、

(d) 配列番号 3 または配列番号 5 の单離ポリヌクレオチド、

(e) 配列番号 4 または配列番号 6 のポリペプチド配列と少なくとも 96 % の同一性を有するポリペプチド配列をコード化するポリヌクレオチド配列を含み、リガンド結合検定法において m G R R と類似した特性を示すポリペプチドをコード化する单離ポリヌクレオチド、

(f) 配列番号 3 または配列番号 5 のポリペプチドをコード化するポリヌクレオチド配列を含む单離ポリヌクレオチド、

(g) 配列番号 4 または配列番号 6 のポリペプチド配列と少なくとも 96 % の同一性を有するポリペプチド配列をコード化するポリヌクレオチド配列を含み、リガンド結合検定法において m G R R と類似した特性を示すポリペプチドをコード化する单離ポリヌクレオチド、

(h) 配列番号 4 または配列番号 6 のポリペプチドをコード化する单離ポリヌクレオチド、  
(i) 配列番号 3 または配列番号 5 のポリヌクレオチド配列に対し 0.96 の同一性指数を有するポリヌクレオチド配列を含み、リガンド結合検定法において m G R R と類似した特性を示すポリペプチドをコード化する单離ポリヌクレオチド、または

(k) 配列番号 4 または配列番号 6 のポリペプチド配列に対し 0.96 の同一性指数を有するポリペプチド配列をコード化するポリヌクレオチド配列を含み、リガンド結合検定法において m G R R と類似した特性を示すポリペプチドをコード化する单離ポリヌクレオチド、または上述のポリヌクレオチドのフラグメントまたは変異型であるかまたはその全長にわたって上述のポリヌクレオチドと相補的であるポリヌクレオチドから成る群の一つから選択される单離 m G R R ポリヌクレオチド。

#### 【請求項 4】

(a) 配列番号 3 または配列番号 5 のポリヌクレオチドを含む单離ポリヌクレオチド、

(b) 配列番号 3 または配列番号 5 の单離ポリヌクレオチド

(c) 配列番号4または配列番号6のポリペプチドをコード化するポリヌクレオチド配列を含む単離ポリヌクレオチド、および

(d) 配列番号4または配列番号6のポリペプチドをコード化する単離ポリヌクレオチドから成る群から選択される、請求項3記載の単離ポリヌクレオチド。

【請求項5】

発現ベクターが適合し得る宿主細胞に存在するとき、請求項1記載のポリペプチドを生産し得るポリヌクレオチドを含む発現系。

【請求項6】

請求項5記載の発現ベクターを含む組換え宿主細胞または請求項1記載のポリペプチドを発現するその膜。

【請求項7】

ポリペプチドの生産に十分な条件下で請求項6記載の宿主細胞を培養し、培養培地からポリペプチドを採取する工程を含む、請求項1記載のポリペプチドの製造方法。

【請求項8】

免疫グロブリンFc領域および請求項1のいずれか一つのポリペプチドから成る融合タンパク質。

【請求項9】

請求項1～2のいずれか1項記載のポリペプチドについて免疫特異性を示す抗体。

【請求項10】

請求項1記載のポリペプチドの機能またはレベルを刺激または阻害する化合物を同定するためのスクリーニング方法であって、

(a) 候補化合物に直接的または間接的に随伴した標識手段によりポリペプチドへの(またはポリペプチドを発現する細胞または膜への)またはその融合タンパク質への候補化合物の結合を定量的または定性的に測定または検出する、

(b) 標識競合体の存在下において、ポリペプチドへの(またはポリペプチドを発現する細胞または膜への)またはその融合タンパク質への候補化合物の結合の競合を測定する、

(c) ポリペプチドを発現する細胞または細胞膜に適切な検出系を用いて、候補化合物がポリペプチドの活性化または阻害によりシグナルを発生させるか否かを試験する、

(d) 請求項1記載のポリペプチドを含む溶液と候補化合物を混合して混合物を形成させ、混合物におけるポリペプチドの活性を測定し、そして候補化合物を含まない対照混合物と上記混合物の活性を比較するか、または

(e) 例えばELISA検定法を用いて、細胞における上記ポリペプチドをコード化するmRNAまたは上記ポリペプチドの生産に対する候補化合物の影響を検出し、そして

(f) バイオテクノロジー的または化学的標準技術にしたがって上記化合物を生産させる工程から成る群から選択される方法を含む方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0109

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0109】

e) 抗体およびペプチド

抗体(ポリクローナルまたはモノクローナル)は、mGRRのNおよびC末端エピトープに対して產生される。同定された推定相互作用タンパク質(例えば上記PICK1)とmGRRタンパク質の会合を破壊することが予測されるペプチドを設計する。内在的に発現されたmGRRタンパク質の機能を破壊する目的で抗体および/またはペプチドを培養ニューロン細胞に適用する。抗体および/またはペプチド処理細胞の電気生理学的特性を未処理細胞と比較研究する。